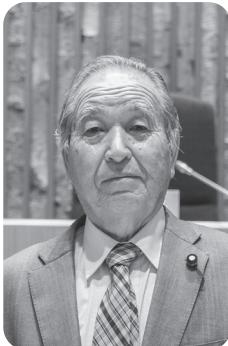


町長

(1)パークゴルフ誕生時から愛好者は着実に増加し、平成28年に130万人となつた後は横ばいの状態が続いている。一方、町内の

(2)パークゴルフ振興を通じての社会的な効果の中で、高齢者の医療費の減少額を具体的に示せないか。

(3)日本パークゴルフ協会設立40年に向けて町の支援策は。



藤原 孟 議員
(無会派)



問 公益社団法人日本パークゴルフ協会（N P G A）が1987年に大きな夢と願いのもと誕生し、まもなく設立40周年を迎える。この間パークゴルフは北海道内の市町村に、また道外や海外においてもコースが造成され、多くの愛好家がプレーを楽しんでいる。

それゆえに、次の10年に向けて着実に歩んでもらうため、町の考えについて、以下の点を伺う。

(1)市民がプレーから離れる傾向にあると聞くが、その要因について町の認識は。

(2)パークゴルフ振興を通じての社会的な効果の中で、高齢者の医療費の減少額を具体的に示せないか。

(3)日本パークゴルフ協会設立40年に向けて町の支援策は。

(1)パークゴルフ誕生時から愛好者は着実に増加し、平成28年に130万人となつた後は横ばいの状態が続いている。一方、町内の

(2)パークゴルフ振興を通じての社会的な効果の中で、高齢者の医療費の減少額を具体的に示せないか。

(3)日本パークゴルフ協会設立40年に向けて町の支援策は。

答 行こうよ、パークゴルフに、高齢者になつても

パークゴルフの普及・発展に努めていく

パークゴルフ場の利用者数は平成8年度は約41万人だったが、令和4年度から6年度は約27万人、7年度は約25万人となり、減少傾向にある。利用者減少の要因については断言できないものの、余暇の過ごし方が多様化したことによるものと考えられる。このため、平成25年のパークゴルフ発祥30周年以降、三世代が交流できるコミュニティスポーツとしての認識を深め、若年層の参加拡大を図るために家族大会の開催や学校でのクラブ活動や体育授業を通じてその魅力を広める取組に努めている。

(2)パークゴルフには、交流促進を通じたコミュニケーションづくり、学校での学習効果の向上、観光客の来訪による経済波及効果、コースを歩くことによる健康増進などが期待されている。本町の高齢者医療費について、75歳以上の後期高齢者の年間医療費は平成27年度から令和6年度にかけてほぼ横ばいとなつてている。これは医療費削減努力の成果があつた一方で、高齢化の進行や医療の高度化などにより医療費が高額となつていることが原因と考えられる。

三重県志摩市と三重大学の共同研究による「パークゴルフの健康に及ぼす効果に関する研究」の報告書では、パークゴルフ実施者と未実施者との健康度と体力水準の比較を行つた結果、実施者の健康度は同じ年齢の方と比べ優れ、血圧や総コレステロールなどの数値において、実施者は平均値が低いという結果が認められたと報告されている。

高齢者の医療費において、パークゴルフ実施者と未実施者でのデータの比較がなく、具体的に示すことは困難であるが、国土交通省の歩行量ガイドラインによれば、歩数を基にした医療費抑制効果が示されており、これに基づいて試算すると、1ラウンド約2600歩で年間90日間プレーした場合、約15210円の医療費抑制額が期待されると考えられる。

(3)日本パークゴルフ協会は令和8年度に設立40周年を迎える。記念事業として、北海道知事杯第40回国際大会をはじめとして数多くの記念大会が計画されており、多くの愛好者が参加する。本町も公共施設の確保やスタッフ支援で協力を依頼されている。これまで町内コース管理や国際大会運営支援、観察団体の対応を通じて普及活動に努めてきたが、今後も協会と協議しながら記念事業をできる限りの支援を行つていただきたい。



パークゴルフイメージキャラクター
「クマガラマーク（通称）」



パークゴルフ応援キャラクター
「パッキー」